

## 三蔵法師の約束

延命寺 薄田泰元



発行：新潟市仏教会  
責任者：小林一三

今年五月十四日、中国揚州で開眼法要の後、一体の「鑑真和上像」が東渡、京都の壬生寺に安置されました。鑑真和上は仏教のみならず、多くの医薬やさまざまな技術を日本に伝えてくれました。遣唐使船での来日をあきらめず、何度も挑戦し初志を貫きました。その和上の基礎となったのは、玄奘三蔵法師がインドから持ち帰った経典でした。

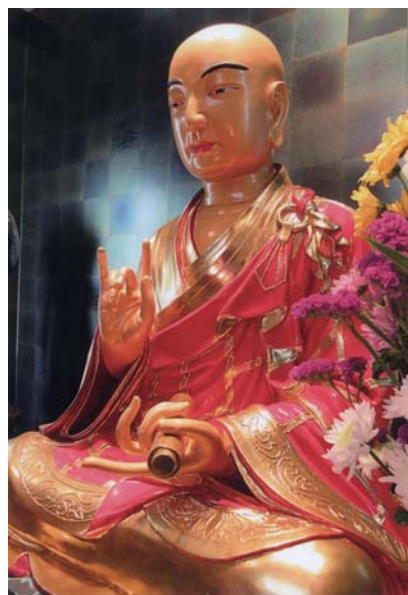
西暦六二九年八月、唐の国禁を破り、玄奘三蔵法師はインドに経典を求めて旅立ちます。長安を出て北路、蘭州・瓜州を経て玉門関を抜けインドに向かいますが、追捕の手を逃れ、従者の変心に遭い、砂漠での砂嵐や水の喪失を重ねて伊吾に到着しました。これを伝え聞いた高昌国（トルファン）の国王鞠文泰は使いを出し法師を出迎え、国民の教育の為に慰留をすすめたが、法師

は自分の目的はインドに経典を求めると出発を決めました。出発に際して国王は、これから通過しなければならぬ国々への通行証や種々の絹布・金・馬・兵・従者等を贈与し、帰路立ち寄ることを約束して見送りました。高昌国を發つたのは西暦六三〇年のことでした。十年余りインドでの研究を重ね、鞠文泰との約束を守る為、高昌国に向かいました。しかし西暦六四〇年、これから戻る自国「唐」の軍勢により高昌国は滅ぼされたことを知りました。別伝では高昌国滅亡前夜、国民は国王と共に広場に集まり、死後数百年経つたらここに集い観月の宴を催そうと誓約したとのことです。二〇一〇年は玄奘三蔵法師が高昌国に入城滞りしてより一三八〇年、高昌国滅亡より一三七〇年にあたりました。法師の菩提寺興教寺に於いて玄奘三蔵法師坐像の開眼が行われました。そこで、陝西省・西安市・新疆自治区・トルファン市と興教寺寛池和尚の理解のもと、制作された玄奘三蔵法師金銅坐像を尊影とし、寛池和尚にも同行を願い、共に三蔵法師がなし得なかった約束を代わって果たすことが出来ました。滅亡前夜と同じく、広場に集まって挙行了した月の夜の法要は千三百余年の歳月を経て三蔵法師の精神に思いをいたす場でもあり、誠に感慨深い法要でした。

長安で法師が持ち帰り鳩摩羅什等と翻訳した経典は、その後、鑑真、空海、道元、更に法然、親鸞、日蓮へと大きな影響を及ぼしてきました。インドから中国、そして日本へと伝えられた祖師方はもちろん、日本にとって大きな井戸を掘った人とも言える三蔵法師は西遊記の登場人物だけでなく、時空を超えて敬意を払って頭を下げなければならぬお方であると感じております。



玄奘三蔵法師坐像



シリーズ 市区八区



江南区の記事

江南区仏教会  
立ち上げ

事務局長 林徳寺 眞 谷 誠 祐

江南区は、旧亀田町、旧横越町、旧新潟市の曾野木地区・両川地区・大江山地区が合併してできた区です。そのため合併以前は同じ地域という意識も薄く、寺院同士の交流も全くありませんでした。

新潟市が広域合併して二〇〇七年には政令市となり、その全体をとりまとめる「新潟市仏教会」も二〇一三年に発足したことから、江南区内の寺院交流を深めるためにも、「新潟市江南区仏教会」を立ち上げたいという機運が高まり、発起人となってくださった有志で、準備を進めておりました。

その結果二〇一六年四月十一日に、曹洞宗の大榮寺様を会場に、区内の各宗派のご寺院一五ヶ寺のご住職様方からのご出席、十九ヶ寺のご住職様方からの委任状をいただいて、立ち上げ総会を開催することができ、出席の皆様の総意をもって新潟市江南区仏教会の立ち上げを決定することができました。

初代会長には横越地区の曹洞宗大榮寺の五十嵐紀典師が、副会長には亀田地区の真宗大谷派通心寺の清水幸栄師と横越地区の曹洞宗円通寺の北上文雄師がそれぞれ就任されることとなりました。江南区仏教会の事業としては、障害者福祉活動への協力をいたします。区内では下記の二事業所が、蠟燭を使った製品を製造し

て販売しておられますが、その材料となる蠟燭の入手に苦慮しておられます。そこで事業所の職員に仏教会の加入寺院を回っていただき、蠟燭を寄贈させていただくことで、この活動に協力させていただきます。

・ネクサス・わかば

新潟市江南区横越中央八―一―四

※蠟燭を再利用して、カラフルなキャンドルを製造。

・あおぞらポコレーション

新潟市江南区天野二―十三―一

※古新聞とロウを材料に着火剤を製造。



カラフルなキャンドル

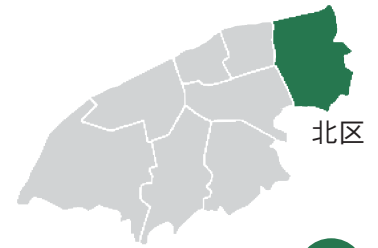


着火剤

将来は、秋葉区仏教会など他の地域の仏教会に学ばせていただき、花まつりなどの行事にも取り組んでいきたいと願っております。ご指導をお願いいたします。



シリーズ 市区八区



## 北区の記事

## 葬儀あれこれ

明正寺 渡邊 学

「豊栄式にしますか。新潟式にしますか」突然、何のことかと思われたでしょう。これは葬儀日程を相談する中で度々出てくる選択です。葬儀は宗派によって定められた次第があり、教えを基に儀式が執り行われていきます。しかし、土地や地域、また寺院ごとの風習や習俗により、同じ宗派でも市内各地によって、基本行事は変わらないですが違うところも多々あるのが実情です。

ところで「豊栄式」と呼ばれている内容ですが、浄土真宗（大谷派）ですと葬儀当日は、ご遺体を前にして、棺前勤行と葬場勤行を一貫して勤めます。その後、家族親族をはじめ、参列者がお別れを告げて出棺し、茶毘に付します。そして遺骨を拾い、自宅または式場に戻り、還骨勤行をいたします。以前は、灰葬勤行と還骨勤行を別に行っていました。今は併せて行っています。引き続き中陰法要（三十五日お引上げ法要とも呼ばれています。が、）を勤め、お齋となります。お齋が終わったら、寺に礼参をいたします。

また「新潟式」と言われるのは、遺骨が還ってくるのを待たずに、中陰法要を勤め、引き続き



浄土真宗の葬儀の野卓の一例

いてお齋にはいりません。最近では、出棺前にすべてのお勤めを済ましてしまうようなところも有るそうです。時代の流れなのでしょう。豊栄はまだ時間の流れに田舎が残っているのかもしれない。

しかし近年は、「豊栄式か新潟式か」などと香気なことは言っていないかもしれません。以前は葬儀となれば弔問が多く、地域社会と関係を持った家の葬儀でしたが、それが家族葬と呼ばれるような、そして個人葬への傾向が見られてきました。向かうところは、葬儀不要の気配が漂っています。人間の生活が、仏さまのことよりも自分の都合を優先するあり方になってきているのでしょうか。

ところで「紙花」（四華）というのをご存知でしょうか。葬儀の際におかざりしますが、白の厚紙を段切とし竹に巻いたものです。お釈迦さまが亡くなる時、沙羅（沙羅双樹）の木があったことに由来すると言われ、双樹のうちの一本が枯れ、もう一本がいよいよ生き生きと栄えたと伝えられています。肉体が滅びても、ますます明らかになり栄えてくる釈尊の教え（法身）があることをかたどる「一枯一栄」という意味であります。

葬儀は、単に亡き人を葬って終わりではなく、亡き人を仏さまと仰いで行うという宗教的な意味合いを持つものです。亡き人を仏さまと仰ぐとは、仏さまの心が私のところに至り届くということです。ご縁のある教えをとおして、この私のところに、人間として生まれてきたことを喜び、生きてきたことに満足できるものになり、そういう仏道の歩みが始まるということが、葬儀にであわせていただいた者の姿であります。



葬儀に使用する紙花（四華）

『新潟市に区が八区』あることと、仏教語にある『四苦八苦』をかけて、各区の記事を順番に紹介するコーナーです。

# 予告

# 第10回 市民のための仏教講座

二年に一度開かれる新潟市仏教会の「市民のための仏教講座」、今回は評論家であり、コメンテーターとして広くご活躍の宮崎哲弥氏をお迎えして、以下のように開催いたします。



- 1, 日時 平成28年10月18日(火) 午後6時30分開演 8時30分終了予定
- 2, 会場 県民会館 大ホール
- 3, 講師 宮崎 哲弥 氏
- 4, 演題 仏教が救う「現代」
- 5, 入場料 (前売り) 1,000円、(当日) 1,200円 全席自由

新潟市仏教会各寺院・県民会館チケットセンター・文進堂書店各店、並びに主要な仏壇店・葬儀社などで販売いたします。

評論家。1962年福岡県生まれ。慶応義塾大学文学部社会学科卒業。政治哲学、宗教論、サブカルチャー分析を主軸とした評論活動をテレビ、新聞、雑誌などで行う。

- ◆出演番組など：T e N Y『スッキリ!!』、BSN『ありえへんの世界』、BSN『ひろおび!』、NHKBSプレミアム『英雄たちの選択』
- ◆雑誌(執筆中の連載)：文藝春秋社『週刊文春』「宮崎哲弥の時々砲弾」、小学館『S A P I O』「宮崎哲弥の食漫全席」
- ◆著書、共著(最近のもの)：『さみしきサヨナラ会議』[2014年(文庫)、2011年(単行本)、小池龍之介氏との共著、角川書店]、『宮崎哲弥 仏教教理問答』[2013年(文庫)、2012年(単行本)、サンガ]、『知的唯仏論』[2012年、呉智英氏との共著、サンガ]

## ネパール大震災一年後の現状

五月二十一日お釈迦さまの生誕二千五百六十年祭の縁日に、カトマンズを訪問し、大震災一年後の現状を視察してきました。

世界遺産に認定されている貴重な建造物は、外観は添え木で辛うじて保っているが、内観は危険でできません。住宅の復旧は殆ど進まずテント生活者が多く、上下水道、道路等の基礎的インフラはこれからという状況であります。ガソリン不足は深刻で、バス、トラック、バイク、自転車、人力が主体で街中は人でいっぱいです。

しかしながら国民は、どんなに辛苦であっても互いに助けあい、明るく「ナマステ」の言葉を発しながら、前向きに復興に向けて立ち上がっている姿には希望の光が見えます。

六月十三日東京にてネパール治水砂防技術交流会の席上、ネパール国代理大使ガヘンドララジュバンダリ氏から、新潟市仏教会の支援に対して感謝の意を表されました。

その義援金「一金六四三、八四四円也」は新潟ユネスコ協会々長大榮寺住職五十嵐紀典師を通して、ネパールユネスコ協会に送金の手続きをさせていただき、今後ともよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

(文責 小林 一三)



## 仏教語と仏事と生活

広 大 寺 加 藤 朝 雄

街頭に立つて、無作為に一人を選び、話し掛けたとします。「あなたは仏教をどう思っていますか?」「仏事に関心はありますか?」

話し掛けられた人の大半は、訝った顔をして、「どうも思っていない。関係ありません」と答えるでしょう。新興宗教の勧誘かと勘違いして、逃げる人がいるかもしれません。現代の人は、仏教をそれくらいにしか思っていないのでしょうか。

しかし、日本人であれば、仏教に浸りきって生活している事に気付くべきでしょう。ほとんどの人が常に仏教を思い、仏事に参加し、仏教に関する言葉を毎日使っています。「仏教に関する言葉を使うな」と言ったら、日本語の会話は出来ません。生活も成り立たなくなります。

「あなた、御飯ですよ」。旦那様は「戴きます」と言って食べ終わると、「ご馳走さま」と言って合掌しました。「往って来ます」と言って出掛け、「ただいま」の声で帰宅しました。この短い文の中でも、あなた・御飯・旦那・戴きます・ご馳走さま・合掌・往って来ます・ただいま等々、仏教に関連した言葉だらけです。仏教語なしでは、家庭生活さえ成り立ちません。

毎週金曜日午後二時五十分から、新潟市仏教会監修・「福宝」提供のBSNテレビ番組「新潟の名刹紀行」が、放映を続けています。平成二十一年四月から、寺院と仏事のお話を続け、実に七年以上が経ちました。過去の放送分も、インターネットで「仏事の泉」と検索すれば、見ることが出来ます。どうぞ御覧の上、日頃の生活を豊かに過ごして下さい。